

富山農林振興センターの管内概要

管内の概況

2市2町1村で構成:富山市、滑川市(※)、上市町、立山町、舟橋村
(※滑川市は農業普及業務のみの管轄)
管内面積:1,844km²(県全体の約43%) ※滑川市除く:1,789km²(約42%)
・標高3,000mの北アルプスから流れる神通川、常願寺川等により
豊かな扇状地を形成
・気候は四季の変化がはっきりしており、冬期の降雪量が多い。
[平年値] 年平均気温:14.5℃、年間降水量:2,374mm

農業・林業: 豊富な水と整備されたほ場を背景に、稻作中心の水田農業を展開
戦後造林した人工林の主伐や間伐等を順次実施
観光資源: 立山や黒部ダムを中心とするアルペンルート
八尾おわら風の盆等
産業の特徴: 工作機械、精密機械などの製造業、
製薬、壳薬等の地場産業

農業の現状

経営耕地面積:16,605ha (県全体の約34%) ※滑川市を含む [2020センサス]
水田率: 94.8% [北陸農林水産統計年報(令和3年3月)]
農業経営体数:5,174戸 (県全体の約42%) [2020センサス]
担い手: 認定農業者532経営体(担い手の耕地面積に占める割合60%)
法人数 212経営体(うち農事組合法人133)

管内農業の特徴

- ・コシヒカリを中心とした「高品質・良食味な富山米」の生産
- ・ドローンの活用等のスマート農業技術の普及
- ・「吳羽梨」や「富山しろねぎ」、「切り花シャクヤク」等の園芸品目を生産
- ・「稼げる!園芸産地プラン」に基づき、産地をけん引する経営体の育成や新規園芸生産者の確保等による園芸作物の生産拡大
- ・業務用米(ゆうだい21等)及び酒造好適米(五百万石等)の生産推進
- ・農産物加工や直売など農村女性の活躍と地産地消の拡大(農産加工47組織、販売額:3億2,252万円、直売所20、販売額:11億8,139万円)

農業農村の現状

土地改良施設の維持管理の課題
・農家戸数が5年間で25%減少(H27:9.5→R2:7.1(千戸)) [2020センサス]
・施設管理の不足や施設機能の低下
農業者の高齢化、土地持ち非農家の増加、混住化の進展

施設の長寿命化対策

- ・大半の基幹的農業水利施設が耐用年数を迎える状況
- ・適切な維持修繕や長寿命化を図るため計画的な整備を実施

経営体育成のための基盤整備

- ・担い手への農地集積や農業法人育成のための基盤整備を推進
- ・水田における園芸作物等の生産に適した農地の汎用化整備を実施

中山間地域対策

- ・直接支払制度等により集落機能の維持や農業生産活動の継続を支援
- ・耕作放棄地の発生防止と農地の復元を推進
- ・老朽化した基幹水利施設の更新

森林・林業の現状

森林面積:129,712ha (県全体森林の45%、管内総面積の72%)
民有林:77,581ha (県全体民有林の43%)
民有林人工林面積:18,661ha (県全体民有林人工林の36%、管内民有林の人工林率24%)
[令和4年度富山県森林・林業統計書]

森林資源の循環利用の推進

- ・県内の人工林の8割が木材として利用可能
- ・森林施業の集約化、路網の整備、高性能林業機械の導入支援による
木材生産体制の強化(主伐量 H28:4,140m³→R5:6,528m³→R7計画:9,000m³)
- ・木材供給量増加を図るため、多様な担い手による計画的な主伐地の
確保(主伐面積 H28:2.2ha→R5:7.2ha→R7計画:11.0ha)

「水と緑の森づくり事業」の推進

- ・明るい里山林や混交林へ誘導するための整備による多様な森づくり
- ・森林ボランティアの支援や普及事業によるとやまの森を支える人づくり
- ・伐採跡地における優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽や保育を
支援(植栽面積 R5:2.1ha、R6:6.2ha、R7計画:6.2ha)

